

話^わじやれ (25)

岐久 ようこ

平成の怪物も

松阪投手は横浜高校から

西部ライオンズに入団し

イチローをバッターボックスに

迎えて連続三振を討ち取る

そんな平成の怪物も

40代になり令和3年には

「右手右腕がシビレル」と

なっていたのだ

ある女性ファン

「彼の野球観戦が人生みたいで」

「彼のパンツが洗いたい!!」

なんて黄色なフアンの声も

囲まれてモミくちやも

「アッ、夢か?」 引退セレモニーで

イチローから花束!

現れたビッグ・ボス

「新庄監督」に

「ガンバレよ!」
儀礼やろ

新庄が 再アクセル ブルンルン

バリンバリ まだ好い事あるよ 松阪も



名妓の生きざま

幕末に尼になられたお話

京の島原で名妓と言われた

「さくらぎ太夫」

「どうぞ御所へ」お呼びもあり

上がったほど

それでも明治維新の前後には

戸惑った事もありました

新撰組の行動です

おいでの折「お刀は預かってます」

「いや、都の見回りで身に付けておく」

お一人づつ説くが通ぜず

とうとう尼さんに

袖も心も洗われて軽くなり

「般若心経」を一心に唱え

「ポクポック、ちーん」

目をつむる

女たちの浮き沈みの

場数のなんと多いことか

松の間で 外は紅葉 袖ぬらす
ときどきは 体を乱し もてあます



友好使節のはずが

ホストタウンを

計画していた自治体

「受け入れを断念します」が続々
の中であつても泉佐野市は

ウガンダ選手を

五輪の事前合宿に大歓迎！

まず、引ッ掛かりが空港の検疫

コロナに感染していた

14日のホテル待機

「サア、これで」

「待っている泉佐野へ」

それで済まなかった

重量挙げの選手が本番に向け

練習をはじめた矢先に失踪

「新幹線に乗ったようだ」

すぐ見つかり送還された

五輪より 家族を楽に したかった
貧しく 日本で出稼ぎ したかった



非常すぎるK2

あのエベレストとは
200メートルしか低くない

「そのわりには知られて無いな」
何故？

一口で言う超奥山のはて

登っても下山がはてさて

306人が挑戦したが36人が

麓に辿り着けてないほど

そんな山に日本女性が挑む

年下の山男を相棒に

「やっとなK2登頂！」

ところが下山で酸素ボンベが不足に

氷点下の夜を二人は「生きてるか」

確認しあつたが翌朝

「太陽が出そうだ！」 続けて彼女は叫ぶ

「結婚する！」

「エエッ、誰と？」

相棒の 勢い貰いながら よくもまあ
陽を指し 次のステップ 別の男や

